



INCJによる当社株式売却に関する 補足説明資料

株式会社アストロスケールホールディングス
(証券コード：186A)

2025年1月20日

将来予想に関する記述

「将来見通しについて」

本プレゼンテーション資料は、株式会社アストロスケールホールディングス（以下「当社」または「アストロスケール」）により、情報提供のみを目的として作成しております。本プレゼンテーション資料には、当社の将来の見通しおよび計画に関する当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの記述は、本プレゼンテーション資料の日付または他の特定の日付時点における当社の仮定および見通しを反映しています。これらの前向きな記述が実現するという保証はありません。

実際の結果は、当社のミッションの開発や運用における変化または不利な結果、顧客の計画やニーズの変更、競争、法的および規制環境の変更その他の要因を含む様々な要因により、これらの記述に示されたものと実質的に異なる場合があります。したがって、これらの記述に過度の信頼を置かないように注意が必要です。当社は、適用法または証券取引所の規則および規制により要求される場合を除き、本プレゼンテーション資料に含まれる情報をその後の進展に基づいて更新または修正する義務を負いません。

本書には、引用されている第三者の情報に基づくまたは派生した情報が含まれています。当社は、第三者の情報の正確性または完全性を独自に検証しておらず、また、その正確性または完全性を当社が保証するものではありません。



INCJによる当社株式売却に関するポイント

2025年1月17日に執行された株式会社INCJ（以下「INCJ」）による当社株式の売却に関するポイントは以下の通りです。

- INCJによる当社株式の保有について
 - 2018年9月に発足した官民ファンド。INCJ活動指針に基づき、2025年3月末までの投資資産（当社株式を含む）の処分が目標。
 - 2024年10月末時点で当社株式17,041,200株（議決権割合14.6%）を保有。当社の第2位株主であり、主要株主に該当。
- INCJによる当社株式の売却について
 - 2025年1月16日引け後から17日早朝にかけて、市場外で機関投資家や事業法人へ売却する「ブロックトレード」を実施。
 - 市場で徐々に売却する方法は長期間に渡り株価に下方圧力をかけるが、ブロックトレードは需給に対する影響の最小化、大型の株式売却が可能。
- **本件売却は以下の観点から、当社株式の売買に関する投資環境としてプラス要素が多い。**
 - ① 2025年3月末までに必ず実施する必要のあった大型売却が完了し、**オーバーハング懸念⁽¹⁾を払しょく。**
 - ② 売却株式数が多いため、市場売却の場合は長期化した可能性もある中、**オーバーナイト⁽²⁾で執行完了。**
 - ③ 株式が複数の機関投資家や事業法人へ売却されたことによる**株主の分散化と安定化。**
- 当社としても以下の観点からINCJの当社株式完全売却にネガティブな意図は含まれていないと認識している。
 - 売却タイミングは、INCJ活動指針に基づくものであり、当社の戦略や業績見通しとは全く関係がないこと。
 - INCJは独立した官民ファンドであり、当社の政府との取り組み、関係性には一切変更がないこと。
- 当社は現時点で他に短期的かつ市場に影響を与えうる規模・手法での売却意向のある大株主の存在は認識していない。

(1) 「オーバーハング懸念」とは、大株主等から将来多量の株式売却が想定され、株式の需給が悪化する可能性のある状況に対する懸念を指す。

(2) 「オーバーナイト」での執行とは、市場の引け後、翌日の取引が開始するまでの夜間・早朝の期間の間で取引を実施することを指す。



INCJの概要

INCJは当社第2位の大株主でしたが、2025年3月末までに株式の売却が求められていました。

INCJの概要

- 日本産業の構造的な課題解決を目的に、民間ファンドでは出来ないリスクテイク機能を持った時限組織の官民ファンドとして、**産業革新機構**が2009年7月に設立。
- その後、産業競争力強化法の改正法施行に伴い、**産業革新機構**は**株式会社産業革新投資機構**として新たに活動を開始し、**産業革新機構**の事業は、2018年9月以降は**INCJ**に事業承継。
- INCJは旧産業競争力強化法と同趣旨の枠組みのもと、**2025年3月末までを活動期間としており、活動期間終了までに投資資産（当社株式を含む）の処分を実施**することを目標に設定。
- 2024年3月末時点では総投資案件数144件のうち113件の処分を完了。**2025年3月末までに残存する31件の処分活動を実施していく方針**を2024年7月30日の定例会見で言及。
- INCJは2016年に当社へ初めて出資。シリーズB、C、Dをリードしていただき、2024年10月末時点で17,041,200株（保有割合14.6%）を保有。**当社の第2位株主であり、主要株主に該当。**

当社上位10株主（2024年10月末時点）

	株主	保有株式数	保有割合
1	岡田 光信	24,840,300	21.28%
2	株式会社INCJ	17,041,200	14.60%
3	ジャフコSV4共有投資事業有限責任組合	4,405,000	3.77%
4	株式会社ゲーニーズ	3,239,700	2.78%
5	ASエースター1号投資事業有限責任組合	2,950,200	2.53%
6	三菱電機株式会社	2,649,700	2.27%
7	株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2,646,700	2.27%
8	スペース・エースター1号投資事業有限責任組合	2,597,000	2.22%
9	日本グロースキャピタル投資法人	2,523,700	2.16%
10	CEPLUX- THE INDEPENDENT UCITS PLATFORM 2	2,250,000	1.93%



ブロックトレードの概要

機関投資家からの需要が十分に喚起できた場合、多額の株式売却でもブロックトレードを通じて短期間で実行可能となります。また、事業に関心のある機関投資家へ直接販売することで、株主層の分散化・安定化も期待可能です。

	売却のイメージ	留意点
市場売却	<p>売却株数</p> <p>時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 全株売り切るまで毎日市場で少量ずつ売却 日々の売却株数は市場の出来高によって左右 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 準備負担、コスト、タイミングの制約が少ない ✗ 売却に時間がかかる（日々100万株の出来高であれば、1,700万株売却するために必要な期間は約170営業日程度⁽¹⁾） ✗ 売却期間中は株価に下方圧力 ✗ 大株主が売却する場合は変更報告書等によって売却が進行していることが公表され、株価形成に悪影響が出る可能性
ブロックトレード	<p>売却株数</p> <p>時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 機関投資家の需要が喚起できる限り、全株を執行当日に売却 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 短期間で大規模な売却を実行可能（十分な需要がある場合） ✓ 継続的な市場売却による株価下落リスクを低減可能 ✓ 事業に関心のある機関投資家に販売することで、株主層の分散化・安定化が期待可能 ✗ 準備負担、コスト、タイミングに対する制約が一定程度存在

(1) 日々の出来高の10%程度を売却していく想定の場合。